

あなたの街の
ドクターが
アドバイス



胃腸が痛いからと「ロキソニン、ロキソプロフェン」を飲むのは、**鎮痛剤は服用しない**

「先生、胃が弱くて、痛くなった時、鎮痛剤を飲んでも良くならないです」。診察していると、こういう相談をされることがあります。鎮痛剤は頭痛や生理痛に効きますが、胃にも効くと思われていることが多いようです。しかし、これは間違いです。

広く知られる鎮痛剤「ロキソプロフェン トリウム」は一般用医薬品として店頭でも購入できるようになりました。この薬は、痛みの元である「**プロスタグランジン**」という成分をつくる酵素をブロックする働きをして、痛みを和らげます。実はこのプロスタグランジンは、胃の粘膜にも存在しています。ここでは胃酸の分泌を抑える作用や胃粘膜の血流を増やす作用をします。ところが、鎮痛剤を飲むことで、**プロスタグランジン**が作られなくなると、胃酸分泌量が増加し、胃粘膜血流量が低下します。そうすると、胃に効くどころか、胃炎や胃潰瘍の原因となり得てしまうのです。

同じように、鎮痛剤「アスピリン」も、血液中の血小板（血を止める）の生成を抑える作用があり、内服することで消化管からの出血を促しかねません。

ですから、胃腸の痛みに対して自己判断で鎮痛剤を使用せず、消化器専門の医師の診察を受けた上で適切な薬を処方してもらうのが望ましいことです。

また、頭痛や腰痛などに悩まされ、日常的に鎮痛剤を希望される場合は、痛みの部位に対して、専門の医師とよく相談してください。鎮痛剤と一緒に胃粘膜を保護する薬を処方してもらおうか、胃に優しい鎮痛剤を処方してもらおうと良いでしょう。小さな子供でも内服できる「アセトアミノフェン」や胃粘膜への影響が少ない「セレコキシブ」といった成分を配合した薬があり、副作用が少ないといわれています。

単なる胃痛だと誤った判断によって、ひどい場合には、胃潰瘍出血、胃に穴が開くなど緊急手術を要することとなります。早めの受診はもちろん、薬の間違った使い方をしないよう、予備知識としてこのことを頭の中に入れておくとうれしいでしょう。

お話ししてくださいました先生



いし 胃腸科内科
院長
石 忠明 先生

岩手医科大学卒。北海道大学
病院を経て、2012年同院院長
に就任。日本消化器病学会専
門医、日本消化器内視鏡学会
専門医

誤「プロスタグランジン」
正「プロスタグランジン」